

編 集 後 記

2008年の新春を迎え、皆様にお慶びを申し上げます。

さて今年はいったいどんな年になるのでしょうか? 「医療崩壊」「医師不足」という言葉が飛び交い、地方の医療情勢は危機的状況にあると言われていています。今年は少しでもその打開策が提示されるのでしょうか?

本号は、生涯教育講座2編、臨床・研究11編と比較的多くの原稿を頂き、有用で内容ある島根医学になっています。

更年期うつ病を含む女性の精神障害に対する治療薬の栗岡先生の論文は、産科領域だけでなく、全ての診療科において役立つ参考にした内容です。また中山先生の「高齢者の元気度とコリンエステラーゼの相関」と、河崎先生の「肺癌患者の倦怠感と予後の相関」は、ともに日常診療上興味深い見解であり、私の患者でもすぐ follow up してみたく思いました。長谷川先生の論文は、厳しい産科医療の現状の中で、県の基幹病院として第一線で取り組まれている実態とその課題を浮き彫りにした内容で、今後のネットワークの構築の必要性を痛感しました。

国立大学協会の調査によると、臨床医学の論文数は2000年前後のピーク時に比べて、2005年には約1割も減少しており、特に地方国立大学での減少が目立つと報告されています。医療の高度化や国民の要求度の変化等から医師の仕事量は格段に増えており、研究や論文作成に使える時間がなくなっている現状ですが、本誌が地域に密着した医学雑誌として果たす役割は大きいと考えます。今後とも多数の論文をお寄せ頂きますよう宜しくお願い致します。(T.T. 記)

島根医学編集委員

沖田 瑛一, 西野 泰生, 武田 博士, 伊藤 是 衛, 葛尾 信 弘,
 児玉 和 夫, 益田 順一, 信太 秀 夫, 岩本 正 敬, 佐藤 比 登 美,
 中川 正 久, 小林 祥 泰, 徳 島 武

島 根 医 学

平成19年12月31日発行

発行者 島 根 県 医 師 会
 濱田市蛭子町
 編 集 編集者 沖 田 瑛 一
 発行所 松江市学園南2丁目3番11号
 有限会社 松 陽 印 刷 所